



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 東京から福島を思いつつ、推進員活動をしています!! —

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■東京湾三番瀬から

福島県内の大学を卒業してまだ数年しか経っていない田中有里さんは、就職のため上京し、東京と福島で推進員の活動をしています。「二地域定住推進員」です。「東京湾の奥に位置する三番瀬が好きです。潮干狩りや野鳥の観察などで、東京の人たちに愛される広々とした干潟でした。」その干潟が、高度経済成長など人間の活動でどんどん埋め立てが進み、水質の汚染が深刻になった場所だといいます。「干潟に立つと小さな生き物がひっそり暮らしているのを発見できます。」

■推進員になったきっかけ

大学時代に、ナチュラライフスタイル部に所属していた田中さんは、部の顧問の先生や仲間と一緒に、どんぐりプロジェクトに参加し、どんぐりの実をつける木の枝払いなどをする中で、「豊かな森を育むことが福島の海を守ることにつながることを学びまし

た。」身の回りの環境を改善し自然の中で活動する部でしたので、もっと環境や地球温暖化のことを学びたいと考え、学校を通して紹介があった福島県主催のうつくしまCOOLサポーター養成研修会（座学・実践・フィールドワーク）に参加し、その年の秋に開催された福島県地球温暖化防止活動推進員養成研修会にも参加しました。「大学4年生だった、2022年のことです。」

■ウチダザリガニ

大学時代の思い出深い活動をお聞きすると、「特定外来生物のウチダザリガニの分布調査をしたことです。」と返事がありました。猪苗代湖で調査を行い、自然の生態系を壊し問題視されているこの「厄介者」を、食材として活用することも検討したといっています。

「フランス料理では高級食材なんですよ。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

田中さんは3月下旬、「比叡山で修行してきました。」と、名物のごま大福を土産に福島県センターを訪問してくれました。「4月から、日本料理店に転職します。桜や紅葉、カツオやサンマなど、旬の営みや食材がなくなることも温暖化の影響ですので、大学の後輩などとも力を合わせ、私は温暖化を食い止めたいです。」と心に響くメッセージを後輩たちに発してくれました。

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>